第 16 回

桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト

日時　2017年6月21日（水）

会場　桜美林大学国際寮大ホール

文 集

２０１７年

桜美林大学日本言語文化学院（留学生別科）

目次

まえがき …… 1

（発表順）

任　美霖　（中国）　親切の連鎖 …… 2

侯　銘　（中国）　留学についての考え …… 5

鄭　策　（中国）　日本人に伝えたい中国の新しい魅力 …… 7

ノーイニン　ワォラポン　（タイ）　悔しかったこと …… 10

王　婧怡　（中国）　比べて学ぶ …… 12

邵　勝楠　（中国）　私の国の観光地 …… 14

グェン　トゥイ　リン　（ベトナム）　決まり文句　16
馬　妍　（中国）　低い姿勢で学ぶ　19
任　佳蕊　（中国）　化粧と私　23
グェン　チャン　バオ　クェン　（ベトナム）　日本のそば　25
講評と賞の概要　27

まえがき

桜美林大学留学生別科主催の桜美林大学留学生日本語スピーチコンテストは第十六回を開催しました。スピーチコンテストに出場してくれた留学生の皆さん、審査員を務めてくれた先生方、講評を行ってくださった淵野辺駅前商店街にこにこ星ふちのべ商店会の萩生田康治様及び進行役や受付などサポートしてくれた学生の皆さんには、心より感謝申し上げます。

今回は十名の留学生がスピーチをされました。国別でいうと、中国からの留学生が七名、ベトナムからの留学生が二名とタイからの留学生が一名となります。勉学やアルバイトなどで忙しい日々にもかかわらず原稿を作成し、スピーチの練習を重ね、充分な準備を行った上で当日に臨まれました。いずれも質の高い、来場者に深い感銘を与えるスピーチでした。

日本で体験したこと、考えたこと、感じたことや自分の国のことについての皆さんのスピーチは、字数制限のある短いものですが、留学生の皆さんの思いや気持ちの一端を知る貴重な資料です。また、日本語でのスピーチは留学生の皆さんの日頃の学習の成果の報告でもありますので、できるだけ多くの皆さんと共有したいと考え、この文集をお届けさせていただきます。ぜひ紐解いていただければ幸いに存じます。

桜美林大学日本言語文化学院（留学生別科）長　張　平

親切の連鎖

オーディエンス賞

留学生別科　任　美霖

私は留学生として、学校の授業とサークル以外に、アルバイトの経験なども大切だと思い、来日して一カ月にも満たない時、バイト先の面接を受けました。面接は全て順調に行われて、当日に採用されました。すごく嬉しくて、面接が終わった後、すぐ友達と共に喜びを分かち合いました。

しかし、スマートフォンで友達と話しながら歩いていたら、帰り道を間違えてしまいました。さらに私を絶望させたのは、その時、スマートフォンの電池がなくなってしまったことです。仕方なく、そのまま歩くと、行きたかった駅古淵駅からだんだん遠ざかっていきました。

その日は雨の日でした。寒いし傘も持っていなかったので、一人で夜道を歩くのは怖くてつらかったです。そこで私は、歩行者に駅までの道を聞こうと思いました。しかし、日本人は内向的な人が多く、中国人に対し偏見を持つ人もいるだろうと思い、聞くに聞けませんでした。きちんと対応してもらえるか、とても不安だったのです。

そんな思いの中、私は勇気をふりしぼり、「すみません、中国からの留学生です。スマホの電池がなくなって、地図も使えないです。最寄り駅はどこですか」と歩行者に聞くと、「そうですか、一番近い駅は相模大野駅ですよ」と、すごく親切に道を教えてくれ、「日本語がうまいね！」と大学生のような彼に笑顔で褒められました。

そして、「よろしければ、僕の傘を……」と言いながら、傘をかしてくれました。すると「家はすぐそこだよ」と言って、彼は素早く走り去って行きました。大きくて立派な男性用の傘の柄に彼の体温がまだ残っていて、すごく驚いた私は、ただただ彼の背中が雨の中に消えて行くところを見ることしかできませんでした。

見知らぬ歩行者にこのような傘をあげることは中国でありえないことです。彼の親切な笑顔はその時からずっと頭に残っていて消えずに今にいたります。

それからある雨の日、淵野辺駅についた私は傘を持たずにバス停の下で雨宿りしているおばあさんを見かけました。

この親切な男の子から貰った恩を他の人にも分かち合えればと思った私は傘を取りに帰り、その傘をおばあさんに渡しました。幸い、私の家は駅からそう遠くなかったのでそこまで苦労せずなんとかなりました。

このような行動を起こせたのも、彼のおかげです。他の人に対し親切にすることはこんな

にも幸せなことだと感じました。皆が同じように、親切の連鎖を作れば、その先に幸せな世界が待っているのではないでしょうか？

私はこれからもこの心を持ち続けていきたいです。

留学についての考え

留学生別科　侯　銘

二〇一六年八月、私は家を離れる不安と外国への憧れを抱いて日本に来ました。そして今、すでに日本で半年あまり生活してきました。この間、様々のことを経験してきました。

最初に留学を決めた時は、自分でも信じられませんでした。本当に外国に行って留学できるとは、まるで夢のようでした。そして色々手続きをして、準備し、いつの間にか出発の日になりました。出発した時のことは今でもはっきり覚えています。空港で両親と色々話して、そして離れました。飛行機が飛び始めた時、故郷の地面を見て、二十年生活した故郷を離れ、これから一年間も海外で生活することを考えて、少し悲しい気持ちになりました。

十時間あまりあと、飛行機の機内アナウンスを聞いた時、これから新しい生活が始まることを実感しました。そして少しわくわくしました。

最初に日本についた時、毎日が新鮮な体験でした。自分の興味を持っているものがどこにでもあります。そして色々食べたことのない料理も食べ放題で、色々新鮮なことがありました。

でも、その新鮮感のあと、カルチャーショックも感じました。自分の国と違って、日本の

色々なことが今まで通りにできなくなりました。そして何回も落ち込みました。帰りたいとまでも考えました。しかしこんなことで諦めたら将来は何もできないと思って、そして克服するように頑張りました。

そして今、留学が終わるまで、あと二カ月です。留学にきたこの半年、私は自分の国と全然違うところで様々な新鮮な体験がありました。例えば違う国の人と一つの話題についてお互い話して、違う考えを聞き、新たな考えが浮かぶことは、とても面白いことだと思います。あるいはお互いに自分の国のことについて紹介する時、違う国のことを聞いたり、自分の国のことを他人に紹介した時の他の人の面白そうな表情を見るのも面白い体験です。

他にも、交流活動でたくさんの人と交流したり、部活で日本人の学生と交流したりもしました。どんな国の人でも、実は皆は同じだと思います。ただ生まれてきた環境と文化が違うだけで、そして違う文化の人とお互い理解し合い交流し合うことは楽しいことだと思います。

留学したこの半年、新たな体験がたくさんありました。外国での一人暮らしもいい体験でした。経験もたくさん積みました。今は自分が留学しにきたことはよかったと思っています。

日本人に伝えたい中国の新しい魅力

留学生別科　**鄭　策**

「中国」と言えば、何を思い出しますか。「カンフー」「パンダ」「お茶」「磁器」「絹」……など、たくさんの外国人の中国に対する理解は、まだいくつかの単調な言葉に留まっています。その中には、あるマスメディアの報道に影響されて、誤解ばかり抱えているものもあります。でも「私が見た中国」はそれだけではありません。魅力があるものがいっぱいあります。今日は皆さんに、中国の新しい魅力についてお話したいと思います。

まず初めは、美味しいごちそうです。

近年、中国では「舌尖上的中国」というドキュメンタリー番組が人気です。この番組は食べ物だけではなく、地元でしかみられない希少な数々のお土産を紹介し、中国の伝統的な食事、生活習慣を映し出しています。例えば、日本で人気がある「麻婆豆腐」という中華料理は、豆腐の香りと唐辛子の辛さがぶつかって、つるつるとした食感とピリッとした斬新な味わいが魅力です。また、中国広西省の柳州の有名な「螺(luo)蛳(si)粉(fen)」という料理です。豚の骨と田螺を一緒に煮て、香辛料を入れると、奇妙な香りのスープは「螺蛳粉」の美味しさに包まれます。「酸笋」という有名な食材、これはとても臭みがある食べ物ですけれど、と

ても美味しいです。食べ物の美味しさは外見からだけでは知ることができません。味わってみて初めて「本場」が楽しめるのです。

次は有名な観光地です。

中国は大地が広くて、有形無形の財産がたくさんあります。日本から行く人たちに、私が一番オススメしたいのは観光名所の「黄鶴楼」です。そこは武漢で一番有名な観光地です。「天下江山第一楼」と称えられています。「黄鶴楼」、「晴川閣」と「古琴台」は武漢の三つの名勝と言われています。この「黄鶴楼」は千八百年の歴史があります。そこには中国の古代の文献が残されています。有名な詩もたくさんあります。例えば、日本人の多くが知っている「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る。故人西の方、黄鶴楼を辞し、煙花三月揚州に下る。孤帆の遠影、碧空につき、惟だ見る長江の天際に流るるを。」などです。そして、「張家界」も一生に一度はぜひ行って欲しいところです。険しい山並みが見えて、断崖絶壁の不思議な風景があります。山水画のような風景はとても独特です。雲気があふれ山や川一つ一つが鮮やかで彩り豊かです。「張家界」のガラスの道は刺激的で若者たちの中で人気があるといわれています。

以上は、中国の食事文化と名勝から中国の魅力を紹介しました。中国はいつでも「平和主旨」を主張しています。これこそ新時代の中国の一番重要な新しい魅力です。世界の様々な

国と一緒に平和共存することは中国の絶対に変わらない目標だと思います。そして、良い日中関係を作ることは日中共同の目標です。

国の利益のため、外国のマスコミはいつも中国の悪いことについての報道やニュースをたくさん流しています。でも、中国の美味しい「螺蛳粉」と同じで、外見からだけでは、中国の魅力を理解できません。いまだに戦争をしていて塗炭の苦しみに喘いでいる多くの国より、中国は十分友好的です。それに、いつでも好意を抱いて外国人の皆様を歓迎します。

近年、日中両国の政治の交流にはまだ障害が幾つかありますが、経済的な交流はどんどん親密になっています。中国人の購売能力は世界でも有名です。日本の製品は中国でとても人気があります。ですから、「爆買」という言葉が出ました。この現象は両国にとって利益があることだと思います。日本のインフレーション状況の改善に役立ったそうです。日中が交流を深めることは私たち現代中国の若者の責任だと思います。未熟者の私たちは、自分の力を信じるべきだと思います。新時代の開放的な中国の魅力をアピールし、それを通して、世界に、日本に中国の魅力を伝えたいと思います。

悔しかったこと

特別賞

留学生別科　ノーイニン　ワォラポン

皆さん、「悔しい」という言葉を知っていますか。「悔しい」は英語で「リグレット」という意味です。悔しいことは人によって違います。皆さんは今まで悔しかったことがありますか。皆さんにとって、悔しいと思うことがたくさんあるかもしれません。しかし、私にとって、人から「私が頑張らない」と言われることが一番悔しいです。では、皆さんはどういう時に悔しいと思いますか。そして、悔しいことがあった時、どうしますか。

例えば、大学三年生で日本語を勉強していた頃、私はある人から「あなたはあまり漢字を知らないですね」と言われました。「どうしてこんな簡単な漢字が読めないんですか」と言われました。それを聞いた時、私はとても悔しかったです。「本当だ。三年生なのに、どうしてこんな簡単な漢字を読めないのだろう」と思いました。私はいつも、簡単な漢字が読めないことや話すことができないなどといった悔しいことがあると、とても嫌な気持ちになります。私は日本語の教師になりたいので、いくら難しくても、もう一度頑張ろうと思いました。

だから、それ以来毎日、漢字を勉強するようにしています。毎日、漢字を三十分勉強して、新しい漢字を五個覚えます。一カ月で百五十個も覚えることができます。このおかげで、漢

字テストで毎週十点満点をとることができるようになりました。悔しいことは悪いことではありません。悔しいことがあった時、それは頑張るチャンスです。諦めずに頑張ったら、必ずいいことがあります。

そして、最近、やっと一番いいことがありました。私が頑張った結果、びっくりするほどの成果をあげることが出来ました。試験に合格し、勉強していた大学から日本語の教師になるための奨学金をもらえることになったのです。だから、留学生別科の授業料は無料です。そして、留学生別科の授業料だけではなく、大学院の授業料も奨学金で払えることになりました。

最後に、もう一度言いますが、悔しいことは悪いことではありません。悔しかった時に諦めてはいけません。頑張ると、必ずいいことがあります。そして、いろんな修正の仕方があります。やり直そうと思えば、いつでもやり直すことができます。皆さんも悔しいことがあっても、諦めないでください。私は人間は頑張ったら、できないことはないと信じています。皆さんは私と同じように考えますか。

ありがとうございました。

比べて学ぶ

交換留学　王　婧怡

外国語を学ぶとき、一番重要なことは文法ではなくて話すということです。話す力をアップしたければ、ネイティブの人々と交流するのが一番いい方法です。そのことを信じて吾妻さんの家にホームビジットしました。

一緒に行ったのは韓国の留学生のイジウォンさんでした。彼女は日本語教師を目指しています。私たちは中国、日本、韓国、三つの国の習慣や礼儀について話しました。韓国の上下関係の厳しさにびっくりしました。中国の上下関係はどうですかと聞かれたら、日本と韓国よりずっと優しいですと答えました。そして、あることに気が付きました。

それは、言葉は人に影響を与え、人は言葉の変化を推し進めるということです。

言葉の形だけから見ると、日本語と韓国語は明確な敬語の形があります。しかも、場合や相手によって敬語の丁寧さも違います。中国語は敬語があるが、普段に使っているのはただ人称代名詞の「あなた」の転換と部分的な単語の転換だけです。

明確な敬語の形があるなら、それに応じて日本と韓国は明確な敬語の使い方があります。日本では上下関係や親疎関係をまず考えます。目上の人や知らない人に対して敬語を使いま

す。それに、同年代の親しくない人に対しても「です」「ます」を使います。韓国では年齢が自分より一つでも上であれば敬語を使い、年下の人に対して敬語を使うときは少ないです。

中国語には現在もよく使われている敬語が少ないので、敬語の使い方はそんなに厳しくありません。中国では知らない人や目上の人に敬語も使いますが、「您（nín）」という中国語の「あなた」の尊称を使うだけで大丈夫です。それに、同じ学校の学生に敬語を使ったら、偉そうなイメージがつくられてしまうかもしれません。

以上のように、言葉は人に影響を与えるということです。

中国ではとても丁寧な敬語を使う場合がどんどん少なくなっているので、中国人にとって敬語そのものの存在感が弱くなってしまい、敬語に転換された言葉の意味がわからない、敬語の正しい使い方も分からないという状況が増えていって、最後には中国語の敬語が少なくなってしまうかもしれません。それは人が言葉の変化を推し進めるということです。

言葉は文化とのつながりが深いです。言葉を通してその国の文化が見えます。国の文化を通してその国の言葉の特徴も見えます。外国語を勉強しているとき、文法や単語を勉強するだけではなく、同じことの表現や同じ場合の表現などそれぞれを母語と比べて勉強するのが一番いい方法だと思います。

私の国の観光地

留学生別科　邵　勝楠

皆さん、おはようございます。今日の私の発表のテーマは「私の国の観光地」です。では、発表させていただきます。

中国で一番おすすめの観光地は開封です。

まず、開封の地理や気候についてお話しましょう。開封は北京の西南七百十四・五キロにあります。北京から開封まで、列車で三時間ぐらいです。車で六時間四十分ぐらいです。季節は四つあります。気候は亜熱帯で、夏の間は暑いです。特に、秋の初めは毎日天気がよくて、景色もきれいです。

では次に、開封の有名な所や楽しみを紹介します。開封の一番有名な建物は龍亭です。歴史上七つ王朝があったのが奠都です。特に、北宋王朝が奠都では歴史が長いです。百六十八年続いていました。昔の王朝の遺跡が残っている宮殿は龍亭です。龍亭の中には午門や玉帯橋や龍亭本殿などいろいろな古い建物があります。それで、北宋王朝の後で、九月九日が重陽節というお祭りになりました。この日は菊の花を大切に思う日で、毎年の重陽節には龍亭の広場で菊花展覧会が開かれます。いろいろな菊の花を山や鳥の形に並べます。とても素晴

らしいです。今、この日は中国の伝統的なお祭りの日です。

そして、開封市内の鼓楼は有名なレストラン街です。一番おすすめのお土産はフーラータンとピーナッツ餅です。フーラータンは一つ百円です。ピーナッツ餅は一つ三百円です。また唐代から菊の花と米の粉を蒸して作ったお菓子を食べる風習があります。これは重陽ガオと呼ばれます。これらの食べ物はおいしいし、安いし、すごく人気があります。皆さん、ぜひ食べてみてください。

最後にいくつかアドバイスがあります。開封の春は風が少し強いですから、厚い服を持って行ったほうがいいです。市内の交通機関はバスかタクシーのどちらでもいいです。グループで旅行する場合はレンタカーを借りると便利です。それから、開封の治安はとてもいいですが、夜、一人で外を歩かないほうがいいです。二人なら、大丈夫です。

開封は本当に美しいです。皆さん、ぜひ開封へ行ってみてください。

今日は私の国の観光地についてお話しました。ご清聴どうもありがとうございました。

決まり文句

特別賞

留学生別科　グエン　トゥイ　リン

こんにちは、ベトナムから来ましたリンと申します。どうぞよろしくお願いします。

今日は決まり文句について発表させていただきます。

日本語には、決まり文句あるいは常套句がいっぱいです。これは日本語学習者として誰でも知っています。初対面の人に対する挨拶の「はじめまして。〇〇と申します。どうぞよろしくお願いします」、ビジネスの文書の「いつもお世話になっております」、関係維持の「今後ともよろしくお願いします」、長い時間が経った後会う人に対する挨拶の「久しぶり」や「ご無沙汰しております」、他人の家に訪問する時の「お邪魔します」、食事の直前に言う「いただきます」などの決まった場面で決まって用いる言葉です。

日本語に初めて触れた時の私はそういう決まり文句が全然わかりませんでした。「なぜ日本人はいつも同じ言葉を繰り返してるの？　日本人は怠け者で自分の心からの挨拶は一つもしないのかな」と思いました。ベトナムでは、決まり文句や常套句はなくて、昔から今まで相手に対して自分の態度と気持ちをちゃんと伝えるために、自分で挨拶を作って使います。例えば、新年に「明けましておめでとうございます」という日本人のような挨拶の代わりに、

ベトナム人は年上の相手に対しては「素直な子どもたちと一緒に幸せな新年を迎えられるようお祈り申し上げます」とか「昨年より健やかな新年をお祈りしております」、子どもに対しては「親孝行な子になりますようお祈りします」といった挨拶を言います。相手と場面によって相応しい言葉を言います。もし紋切型の言葉を何回も使うと、すぐ本音ではないと評価されます。ベトナム人にとってはこれは相手に対する本当の感謝の意を表す手段だと考えられます。それで、ベトナム人の私には日本人の決まり文句が理解できませんでした。

これについて生涯学習論の先生に聞いてみました。「たぶん、これは異文化の問題だよね。日本人は古来から誰でもこの習慣に従って生活を送っている。もしそんな言葉を使わなかったら、礼儀正しくない人と評価される」と先生に言われました。また、もう一度日本人の友達にこのテーマについて話しました。彼女は「確かにね。でも、内心でいろんなことを言いたいけど、口下手の私にとってはその決まり文句はすごく便利だよ」と言いました。

時間が経つとともに、日本人と出会うチャンスが増えて、日本の生活にだんだん慣れてきました。かつて「微妙だ」と思った私はいつしか日本語の決まり文句をよく使っていて、使っているかどうか気づかないほどです。そのことに気づいたときに、さきほどのお二人の話を思い出して、「ああ、なるほど」と納得できるようになりました。

相手に心からの挨拶を伝えたいなら、ベトナム人は自分の気持ちと心からの考え通りに挨

拶を、日本人は自分の気持ちを心に秘めながら決まり文句を言います。両方はちょっと違います。ただ、違う点はやり方に過ぎません。どちらも素晴らしい習慣なのではないでしょうか。

以上は私の異文化の経験です。ご清聴ありがとうございました。

低い姿勢で学ぶ

交換留学　馬　妍

最近中国の『傅雷家書』という本を読んでいて、次のような文があることに気づきました。「学びて己の欠点を知る。自惚れるのは無学無知の人に限る。私は、読んだ本の数が少なすぎるとますます感じるが、自分を慰められるのはただ吸収・消化に長じるということだけだ。」

これは傅雷先生が息子さんに書いた手紙の中の一文です。こんなに博学多才で、私は一生追いつけない人物の口から「読んだ本の数が少なすぎる」という言葉が出たとは、驚きました。けれども、よく考えてみれば、たしかに偉い人ほど広々とした世界が見えるかもしれません。

私はそんなに偉い人ではないですけれど、日本語を勉強すればするほど、自分が分かるのはほんの雀の涙ほどしかないとよく感じます。もちろん、語学にも勉強にも限らず、あらゆる知識は同じで、前に向かって進むほど自分がまだまだだと自覚します。でも、このように明確に不足だと認識し、知識を求める姿勢は大切だと思います。自分の不足を発見し、悔しくて補いたくなり、勉強する気が湧いてきます。そして、好循環になるのです。

そして、勉強するには必ずいろいろな意見や見方と接します。そのときはまた、自分を低

くしなければなりません。

低い姿勢をとることによって、人の言ったことが耳に入りやすくなります。もし自分の意見を暫くの間捨てないでまた反駁したいという気持ちを抑えなかったら、相手が何か言ってもただ「そうですね、でも……」と言ってしまうだけでしょう。残念ながら私はそういう人です。もし、自分と対立する意見が出たら、こちらはまず「疑問に思う精神」を持って、潜在意識の中に間違っているのは相手だと信じた上で、何か自分を支持する合理的な解釈を見つけます。なぜならば、「疑問に思う精神」を奨励すべきじゃないか、自分に知識がある証じゃないかと思っているからです。

しかし、実際間違っているのは私だということが何度もあると、「疑問に思う精神」そのものは間違ってはいないけれど、量的変化は質的変化を引き起こし、過度の「疑問に思う精神」は実は自惚れに等しいということが分かってきました。そこで、これからはよく考える前に人の意見に反駁はしないと心に決めました。

でも人の個別の意見だけではなく、学生の私たちは授業をつまらないと思って受けたくないこともよくあります。その時はどうすればいいのでしょうか。

私はこう考えました。この時、まず道徳上の考えで自分を感化しましょう。先生を尊重するのが学生の本分ですから、授業を聞かなければなりません。しかし、もしこの考えでは授

業中に遊びたい自分をどうにも納得させられないなら、考え方を変えましょう。そう、先程も言ったような低い姿勢が大切です。相手は先生としてこの教室にいる時点で、必ずどこかで自分より強いはずだということが分かれば、授業を聞かなくても損はないという自信はなくなるでしょう。

私自身の経験から見れば、一般的に授業をつまらなく思わせる理由はいくつかあります。その中の二つに少し触れたいと思います。

一つ目、先生が授業に関係ない話をすることがあります。でも、先生が話すなら、まず聞きましょう。話を聞くのは見聞を広める手段です。先生は長年の間に社会で頑張り抜いてきた正真正銘の社会人である以上、先生の経験は私たちにとって疑問なく貴重な宝です。普段聞いてもたぶんおっしゃってくれない話を自らしてくれるのですから、喜んで聞かなければいけないと思います。同様に、もしこの場面を先生へのインタビューに変えたら、きっと学生は真面目に聞くでしょう。なぜなら、先生の話は必ず何か役に立つと信じながら勉強する姿勢で聞くからです。

二つ目、授業の内容が自分のレベルに合わないことがあります。難しすぎる場合と簡単すぎる場合があります。前者はわざわざ自分を低くする必要がないので、後者について話しましょう。いつも自分の不足を認識できていれば、先生の話が勉強になるというのは非常に簡

単なことです。語学を勉強している私たちの場合は最も理解しやすいです。もし、先生がおっしゃってくれる内容がすべて分かっているなら、先生の話を聞いて、表現や語彙を勉強し、聴解を練習するのをお勧めします。他の場合なら、これらの知識を永遠に忘れないように先生の話を聞きましょう。

学問の道は終点がありません。低い姿勢でこの道を歩けば、もっと美しい風景が見えるかもしれません。

化粧と私

留学生別科　任　佳蕊

皆さん、こんにちは、任佳蕊と申します。これから化粧についてお話しいたします。

私は元々は地味な子でした。でも日本に来てからほぼ毎日化粧をしています。振り返ってみれば、半年前の入学許可がきっかけです。

高校を卒業して、大学に入って以来、周りに化粧をする人がますます多くなりました。しかし、自分はまだ学生だ、まだ若いからと思ってずっと化粧をしていませんでした。

日本に留学をすることを決めた時「日本の女の子たちはみんな化粧をしていますよ、そろそろ化粧を少し試してみれば？」と母に言われました。そう言えば、以前そう聞いたことがありました。急いでよく化粧をしている友達に教えてもらいに行きました。

初めてのメイクはとっても大変でした。いろんな色の口紅、名前も用途もわからない化粧道具に戸惑っていました。でも、自分を磨くため、日本に来る一カ月前は毎日化粧をしていました。最初は下手すぎて、親にも笑われました。だんだん慣れて来て、友達にも誉められました。今は時間が許す限りほぼ毎日化粧しています。別に化粧をしても、顔がそれほど大きく変わるわけではありません。ただ、顔色がよくなって、元気な印象になり、楽しい一日

を過ごすだけです。化粧をしてから、精神的にもより大人になりました。一人暮らしをしている今の私にとっても重要だと思います。一人で、遠い場所に行く時も勇気と自信を得ました。また、化粧は「社会人のマナー」とも言えます。将来日本で就職したいなら、必要になります。だから、化粧をしたら、自分も日本の社会の一人と思われます。

化粧が濃すぎたら不快感を与えますが、自分に似合う化粧をするのがいいです。皆さんも化粧をしてみませんか。

以上です。ご清聴ありがとうございます。

日本のそば

留学生別科　グェン　チャン　バオ　クェン

今日は、日本での初めてのアルバイトと大好きなそばについて発表させていただきます。

私は日本に来る前、日本の飲食について何が好きかと聞かれたら、やはりうどんだと答えていました。では、どうして今日はそばについて発表するのでしょうか。それは、日本に来た後、初めてのアルバイトがそばとうどんの店だったからです。その店でアルバイトしているとき、うどんよりそばがよく注文されているのを見て、「なぜだろうか」と考えました。注文を受けるたびに毎回、毎回、そばを盛り付けているうちに、どんどん興味が湧いてきました。ある日食べてみようと思って食べたら、それ以来そばが好きになってしまいました。

皆さんはもう知っていると思いますが、少しそばについて説明したいと思います。そばとは、そば粉で作られるものです。百パーセントそば粉で作られると、麺が脆くなるので、多くの店は小麦粉も入れて作っているそうです。そばは、江戸時代に発生したといいます。白い米より、そばの方が栄養が高く、ビタミンＢ１を吸収しやすくするチアミンという物質もあるので、脚気を防ぐことが可能です。全国でそば屋を見つけることはとても簡単です。例えば、多くの駅では、電車を待っている間にビュッフェサービスのそば店で早く食べること

も可能です。

そして、そばには、冷やしそばと温かいそばという二つの食べ方があります。

春になって、だんだん暖かくなっていく時、冷やしそばがよく食べられます。一番簡単なのはざるそばです。ざるという竹で作られた入れ物に冷たいそばを乗せて短く切ったのりを上に盛り付け、冷たいつゆにつけて食べるのは、暑い夏にぴったりの食べものです。冷やしそばがよく食べられる時期は四月から八月までです。九月になったら、温かいそばに変わります。器に茹でたてのそばと温かいつゆを一緒に入れ、また様々な天ぷらをトッピングしても美味しいそばができます。

初めにお話ししたように、私の初めてのアルバイトはそば屋さんでした。アルバイトをしながら観察してきて面白いと思ったのは、よく来てくれるお客さんのほとんどが会社員とお年寄りのようだったことです。若いお客さんは来ないわけではないですが、率が低いようでした。その理由はそばの便利さにあるかもしれません。

そばには、毎日の生活でよく食べられる料理というだけではなく、長い命のため大晦日の夜にそばを食べるという伝統的な習慣もあります。そばは日本の伝統的な料理であるばかりか、独自の文化だと思います。

ご清聴ありがとうございました。

講評と賞の概要

桜美林大学日本言語文化学院教務担当　准教授　石塚　美枝

今回のスピーチコンテストは、交換留学生二名、留学生別科生八名の計十名と、いつものスピーチコンテストより若干出場者が少なかったですが、中国、ベトナム、タイからの留学生が出場し、いずれも興味深いテーマでスピーチをしてくれました。

受賞者は、第一位が任　美霖さん（中国）、二位が王　婧怡さん（中国）、三位が馬　妍さん（中国）と三名とも中国の学生という結果になりましたが、三人ともさすがに上位入賞者だけあって説得力のある堂々としたスピーチでした。また、特別賞はノーイニン　ワォラポンさん（タイ）、グェン　トゥイ　リンさん（ベトナム）が受賞しましたが、いずれも大変おもしろい視点から自分と日本との関わりを捉えており、聞いている人たちに新鮮な驚きと発見を与えてくれました。

今回のスピーチは大きく二つのテーマに分けられるのではないかと思います。一つは留学生活の中での出会いや発見、そしてもう一つは人生や勉強に取り組む姿勢や視点についてです。例えば、日本留学に対する新鮮な気持ちを話してくれた侯　銘さん、日本で生活する中で自国の文化や魅力を再発見した鄭　策さん、邵　勝楠さん、そば屋でのアルバイトを通して新

しい食文化や文化に対する考え方を発見したグェン チャン バオ クェンさんなどは、期待と不安を抱いて飛び込んだ日本での生活の中で感じたことを新鮮な目線で捉え話してくれました。また、グェン トゥイ リンさんや任 佳蕊さんは、普段私たちがあまり気にしていないと言ってもいい「決まり文句」や「化粧」を切り口にスピーチをしてくれましたが、彼女たちが小さな気づきから、誤解したり悩んだり考えることを通して、より深く文化というものを理解していく様子が生き生きと伝わり大変興味深いスピーチでした。その中でも優勝した任美霖さんのスピーチは、雨の中で道に迷った不安な気持ち、そこへ颯爽と現れた男性に傘を貸してもらった時の嬉しさや人のぬくもりがよく表現されてドラマの一シーンを見ているようなスピーチでした。また、親切にしてもらった気持ちを他の人にも広げようと任さん自身が実行してみたという展開も、聞いている人が温かい気持ちになることができました。

もう一つのテーマは人生や勉強に取り組む視点です。二位の王 婧怡さん、三位の馬 妍さん、特別賞のノーイニン ワォラポンさんのスピーチからそれがよく伝わってきます。王さんは物事を学ぶためには「比較する」という視点が大切だと語り、また馬さんは学ぶ時には「聴く」ということが大切だと語ってくれました。授業中、先生の話がどんなにつまらなくても、まず聴く姿勢を持とうという話には審査員席から苦笑が起こりましたが、謙虚に人の話を聴き、そこから学ぼうとする姿勢の大切さが伝わってきました。また、ワォラポンさんは漢字

の勉強の苦労について話してくれましたが、どんな時にも「悔しい」と思う気持ちが大切で、その気持ちが自分を次の目標に引っ張り上げていくのだと、優しい口調でしたがしっかりと伝えてくれました。この「比較する」「謙虚に聴く」「悔しいと思う気持ち」というのは、勉強だけでなく人生においても重要な視点や姿勢なのではないかと、改めて考えさせられました。

スピーチコンテストで毎回驚くのは、留学生の持つ感受性の豊かさと、何か問題が起こった時にその問題に真摯に向き合い、自分なりの解決方法を探っていこうとする人間力の高さです。彼らがスピーチコンテストを迎えるまでに、テーマを考え、文章にまとめ、発表の練習をするという過程を通して、自分自身の中にある強さを発見してくれたら嬉しいですし、またスピーチを聴いた人たちが、「親切の連鎖」のスピーチのように彼らの思いが連鎖して、自分や自分を取り巻く環境を見直すきっかけになればさらに嬉しいと思っています。

今回参加してくれた十名の留学生の皆さん、本当にありがとうございました。そして、審査員を務めてくださった留学生別科・新屋 映子先生、グローバル・コミュニケーション学群・齋藤 伸子先生、当日講評をしてくださった淵野辺駅前商店街の萩生田様、そしてスピーチをご指導くださった先生方に心から御礼申し上げます。

次回も留学生の皆さんのスピーチを楽しみにしています。

第 16 回　桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト　文集

2018 年 3 月 28 日発行

桜美林大学日本言語文化学院（留学生別科）

〒252-0206　神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL：042-704-7041　FAX：042-704-7033